

労働者の解放は
労働者自身の手で

第32回 メーデー万歳

クロハタ

日本アナキスト連盟機関紙
LA NIGRA FLAGO
Organo de
Anarkista Federacio Japana
発行所 クロハタ編集局
東京都新宿区北山伏町33 (大沢方)
編集発行人 大沢 正道
一部20円(税共)・1年240円

日本アナキスト連盟 第32回 メーデースローガン

- 1、労働者の解放は労働者自身の手で
- 2、議会主義反対、直接行動で徹底的にたたかう
- 3、既成指導部に集うタラ幹政治家、労働ボスを一掃し、労働組合を労働者自身の手で取り返せ
- 4、資本家の合理化を粉砕し、労働者管理に方向を前進しよう
- 5、大幅賃上げ、労働時間短縮のたたかいを臨時工、社外工、未組織労働者とともにたたかい抜こう
- 6、労働者に対する処分を撤回させ、ストライキ権を奪回せよ、国公法、地公法等改悪反対
- 7、政治的暴力禁止法反対、労働者人民に対するあらゆる抑圧法を直接行動で粉砕せよ
- 8、新島ミサイル基地反対、防衛法改悪反対、安保条約を廃棄し、帝国主義者の戦争計画を粉砕せよ
- 9、農民を搾取、抑圧する農業基本法反対、農業コンミューンの確立に向けて前進しよう
- 10、全学連を革命的学生の手に、全自連を粉砕せよ
- 11、原子戦争を賭ける国際帝国主義者の野望を打ち砕け、死の商人には死を、世界戦争には世界革命をもつて答えよう
- 12、労働者人民をあきくニセ社会主義国家の幻想をバクロせよ
- 13、植民地主義者、帝国主義者たたかうアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの労働者人民万歳
- 14、イベリア半島労働者と連帯せよ、フランコ、サラザール・ファシズム政権打倒
- 15、労働者解放の真の前衛、国際労働者協会、アナキスト・インターナショナルの旗のもとに、労働者、人民、学生は日本アナキスト連盟に結集しよう

第32回メーデーにあたり

労働者諸君に訴える!!

安易な幻想を棄てて

自らの解放に立ち上れ

昨年、第三十二回メーデーの中心スローガンは、安保改定阻止であった。しかし第三十二回メーデーの申元スローガンには安保の字もかかれなかった。安保改定は阻止されたのか。どうでもよい。新安保条約は戦後最大の労働者、学生、市民の闘いにもかかわらず、既成指導部の議会中心日和見主義のために、六月十九日自然成立した。それならなぜ新安保条約の闘いが、今年の中央スローガンにかかれなかった。「平和をかちとろう」なんてナンセンスな迷文句が筆々と市を利かして

昨年のメーデーは、昨年以上の闘いはなく、戦後最大の記録を更新しておこなわれた。しかし、その表面の上の盛大さの裏で、労働運動を支える闘争組織とエネルギーと意欲が、一歩一歩失われている現実から眼をそらすはならない。

資本家の実態を知れ

労資協調は全くの幻想だ

今年の春闘について日経連前理事長は、池田政府は低姿勢すぎる、労働者をもっとびしり抑えつけろと政府に文句をつけた。驚いたのは政府より労働者だ。三月以来公労協労働者は数千人のぼろぼろを出し、タラ幹の術策をはねかえすことができた。一三二、三二四という小中賃上げに屈した。鉄道でも私鉄でも全金でも、軒並小中賃上げしかできなかった。ところが、資本家はそれでも多すぎる、のさばりすぎるといふのだ。彼らは昨年来の池田の高物価政策のために、どれほど労働者人民が窮乏し難渋しているかをまったく無視し、彼らのためこんだ莫大な超過利潤を労働者にすくとも返さず、また、殊勝な気持で毛

今年、春闘は終息段階に入り、七月の総評大会を中心に労働運動は連年の総括と今後の方針を決定する次の闘争への準備段階に移行する。戦闘的な労働者はまた春闘の敗北を繰返さぬために結集し、各職場、各組合に討論をもち、どうすれば闘争労働運動を創りだすことができるかを本気で討議しな

転機に立つ労働者

闘う労働運動を創り出そう

戦闘的な労働者はまた春闘の敗北を繰返さぬために結集し、各職場、各組合に討論をもち、どうすれば闘争労働運動を創りだすことができるかを本気で討議しな

第三十三回メーデーは浮かれさわぐメーデーではなく、資本家打倒の嵐にあらたに闘うメーデーにするべく、今日からたたかち行動を開始しよう!!



労働者

メーデーよ 闘争の歴史にかえれ!

命の夢がとくに消失しても、依日であった。それ故に革命遂行然としてお祭りのメーデーがくりかえされる。習慣というものはつくづくおそろしい。いい加減にしたらどうだといふことになる。メーデーをお祭りにする何ものか。労働者自身が自分たちの日を、御つものとして所有して

労働者は彼らと協調してめけるだろ。協調とは人間と人間の関係にのみ可能なことだ。ところが労働者は資本家によって人間ではなく商品である。もし労働者が協調という人間関係を結ぼうとするなら、まず商品であることを止めてはならない。商品であることを止めるには、資本家を倒し、労働運動をなくさなくてはならない。したがって全労働者が協調している労働協約などはまったくの幻想論観念論なのだ。

闘う組合員と

闘わせない官僚

労働者はどのような非人間的な資本家と対決し、みずから人間復興のために日々闘っている。多くの場合、労働者はこのことをはつきりとなえず、ただむねにやまれぬ本能から立ち上っている。安保闘争、三池闘争は敗北に終わったけれども、この大闘争は労働者の敗北感を強めるよりも、むしろ戦闘的な意識をたかめる成果をあげた。俺たちはもっと闘え。この自覚が今年の春闘に反映していた。それが物価暴騰と好景気に結びついて、

御送金は振替を
御利用下さい
東京一四四七三
クロハタ編集局

座 談 会

E 戦術がなかったから組織でできなかった。原則的なことをいかに具体化していくかに問題がある。

○ なにもやらなかったということではない。やったけれどもわれわれが期待するものが出てこなかった。

え目の下のタンコブなのだ。反安保闘争の経験が彼らの頭をはなれないで焼付いている。国公公法さえ改悪してしまえば公務員を彼らの怒意のまぎにコキ使つ

闘争が組織されようとしてゐるわけである。

四月二十五日には全国で統一して実力行使（最初は二時間の早期職大が一時間に切り下げられ

ILO第87号の批准は、労働者にとつてはきほどの急務ではない。労働者は目からの闇の中

つきりみぬいて粉砕することか
大事なことはないか。

にでるときさえ代償にと
のだ。もつと悪いことが
T・U・Cの幹部どもは
側につき、時には首切り
協力を惜しまない。労働
回復は労働者の手で、す

しかし、われわれが新しいつかみ、労働者の特権賃金制度の廃止を要求せ味なのだ。」と主張したこのような討論のあと、Fは受け入れられた。

へ、新聞の発行など、
 じて宣伝とニュースを
 (b) 友好的な組合支
 議會へ回状をまわすな
 財政を確立する。国外
 を呼びかける。(c) ニ

主義者にファッシストだす。しかしすべては運動は真の意味で「ユアセルフ」（自分の力でせよ）の運動なのぞりーダム二三巻五号リ

「の影を見いは去った。コードウィットのこととは自分である。(フ要約)」

の影を見い
公った。こ
ーウィット
ことは自分
める。(フ

る。それゆ
かせねばな
の考えとほ
の必要を金
政治的官僚

を單なる批
意見をあつ
加者は労働
こころのだ
ンブルを持
持たない

は大部か
た。例え
を理由に
だなエネ
という意
ズムの欠

の住所は
1111 1st St.
Seattle, WA 98101
の住所は

のち、す
された。
Com
Bank &

ために、
二(2)財
選出され
ールでき
機関であ

かける。
研究、す
を行なう
会と情報
ねばなら

助する。
高める。
イコット
は滅多に
力な我々
れば、国

こつてゐる
戦易で爰

なぜアナナル・サンジカリズムか？

われわれはなぜアナナル・サンジカリズムを、労働者解放を真に実現する運動として主張するか。アナナル・サンジカリズムとはそもそもいかなる主張であり、いかなる戦術、いかなる組織、いかなる目的で闘うのか、以下に説明しよう。

直接行動 労働者管理の闘い

アナナル・サンジカリズムとはなにか

① 意識的「労働者」だが、実は生産点で労働しないひとびと、政治家、知識人などの指導を運動から排除する。

直接行動—議会主義反対

② 闘いの主体と場を労働組合と生産点に求める点で社会党、共産党などの政党と国会に闘いの主体と場を求める方式と区別される。

③ 労働組合に三つの任務を課する点で、総評、全労連を問う、今日の日本のほとんどすべての労働組合に質的に異なっている。

事務系 12日間のスト

徳田製作所労組の闘い

① それがピンからきりまで働く生産労働者の運動であること。

② その闘いの主体はこれら働く労働者の組織、労働組合（フランス語でサンジカ、英語でシンジケート）であり、その闘いの場は生産点であること。

③ その目的は革命を経るには実現されず、従ってその労働組合は日常闘争の機関であること、革命闘争の機関であり、さらに革命後における自由社会の基礎となる三つの任務を課していることである。このことから、他の社会運動労働運動との違いがわかってくる。その主要点は、

みんなが納得して みんながやれる戦術で

真室ボツと真室 装置を作る東京品川の徳田製作所で、組合員一〇九人（無所属）三月初四、五〇〇円賃上げを要求した。これに対して会社は平均一、八二〇円を回答した（注）社長の月給一〇万円、部長級一〇万円、平均二〇万円、昇給は例年デフレな勤務評定とお手もりで平均額でコマカして

的のサンジカリズムとは議会主義—政党内閣は分かれてしまつた。革命的サンジカリズムは労働組合の国会請願というような政治への圧力行動としての役割を労働組合に与える議会主義に反対する。闘争のイニシアチフは政党内閣ではなく、労働組合に結集した労働者がにぎり、生産点における直接行動

産業別自由連合

—その組織—

① 労働組合は、政治家、知識人の指導を排し、生産点において資本の抑圧、搾取に反対し、日常闘争を闘うとともに、革命闘争の機関として、意識的の面で、組織の面で革命を準備し、遂行し、防衛し、新しい社会の基礎となる三つの任務を課する。したがってそれは

② すべての生産労働者が、生産労働者であるという点によって性別、国籍、信仰、イデオロギーを問わず、参加しうるものでなくてはならない。しかし、同時にそれは生産労働者という地位に必然的に伴う資本による抑圧と搾取に反対し、労働者自身の革命による完全な解放を志向するものでなくてはならない。そのためにそれは労働者の闘争による教育を重視する。

労働者管理の確立

賃金制度、国家の廃止

アナナル・サンジカリズムは、単に日々の資本による抑圧と搾取に反対する運動ではない。それは個々の反逆を蓄積し、深め、たかめて、革命を準備し、遂行し、防衛する任務を課している。

アナナル・サンジカリズムが革命の決定的戦術とみなすのは全労働者によるゼネラルストライキである。ゼネストは革命の決定的瞬間にだけ行われるものでなく、たとえは安保と三池のような重要な社会闘争中にも有効な戦術であり、これらのゼネストの体験の蓄積はすべて革命的ゼネストにつながるものである。

現代アナキズム講座 立場からの 性問題 ④

彼らの心の深部にへばりついてる地獄の怖れが、父権制の副生産物として「社会的に与えられた物か、又は、仏教の悪の「業」のような物か、あるいは、もつと決定的に生物学的に与えられた物か、それは絶対に永続的であつて、政治的反動共は正しく、性的な悲慘を救う如何なるすべでも無いだろう。かくて、父権社会の反動共は、人間の道徳や、高い文化価値の破壊が、性的な倫理的混乱を創り出すのだと見栄を切るだろう。

多くの人が、革命について考える時、この神聖な諸価値の破壊による性的な倫理的な混沌を、無意識に怖れる。実際、革命は、アナキズムのそれを除くことは、この諸価値の破壊と性的な混沌との関係を理解した事ではない。革命家は基礎的な「性経済」の問題に出会う時、政治的反動共と全く同じ壁に頭をぶつける。諸君はナチスが科学を集団化した時、驚嘆したが、こんどのソ連の人間ロケットの成功は、それは異質的な集団の総力を勝ち取った結果と感嘆し、たゞ、殊にそれと生産関係を眺めみ合せるゴッパンの思考の努力を模倣した模倣観念に久野取のように幻惑されて、フルシチョフが昨年発した「子供は両親と教師訓令に絶対服従」という意味のテーゼの危険性を見がしているかも知れないが、実際、革命家は政治的反動共と、少し違った意味で、その意味すら本当には知らない癖に、性経済原理を嫌っている。だから、彼らは「アシスト」と同じく本能生活を道徳的に規定すれば、反社会的な衝動を排除できると信じているが、実は、全くその反対でかかる道徳的規定が反社会的な衝動を生む事を見落しているのだ。例えば、自然な性的満ちの抑圧、支配階級が血の純潔—血統重視（後述）の偏見によってデッチ上げた女の独占とその妄念が、道徳的規定を創り上げ、これを踏みにじった者に汚名を浴びる。

性問題を持たない場合、相手は他人と関係に這入る事を禁ずるのは、全く不自然である。従って、性的衝動に対する絶対的な厳しき概念規定は警戒を要する。従属的な衝動も、また、その目的のみならず、その発展の時機によって決定される。同じくでも場合と時機によって、反社会的にも、自然的にもなる。

例えば、一歳や二歳の子供が糞便をもて遊ぶのは、性活動前期の自然な行為であるが、十四歳の小児が、それをもて遊んだり、喰べたりすれば、これは病的な衝動である。自由社会は、かかる病理的衝動が、少しも発展しないように教育を組織するだろう。なお、十五歳の少年が十三歳の少女と愛の関係に入るなら、自由社会は、それを肯定し保護するだろうが、もし性関係を強請するなら、反社会的な衝動として厳しく制御されるだろう。なお、女は、何時でも、なんの内心の関与もなくその体をまかせるといふ出来ていると決め込んで、なじみの女をねじまける男の強姦イデオロギーは、徹底的にツルン揚げる必要がある。

分権主義者であるわれわれは、ここで、地域社会の暫定的な政治権力の執行の可否および手続的な問題、続いて同社会内の強力な世論の重圧と「ライバシイ」の問題（長谷川進「キツツ」無政府研究16・71所収）に出会う。我々は「ナルコ・センチュメンタリ」にはなりたくないものだ。要するに、ブルジョアから自由社会への過渡期においては「従属的な反社会的衝動に対する道徳的規定があるべきであり、又、自然な生物学的必要のための性経済規定も同時に作用されなければならない（傍点ライビ）

しかし従属的な衝動に関するこの公式は、反動によって曲解され易い。権威的道徳的偽善が裏側から忍び込まないよう、自然な衝動に従属的な衝動の相手を明らかにする絶えず努力を、賢明なる読者に心からお願ひしたい。なぜならあらゆる種類の道徳規定は性否定であり、真の文化の花は、性肯定によつてのみ開花すること永遠の事実だからである（小川正夫）

